

日本列島では活断層とともに暮らしていることを忘れてはならない

～活断層地震が続いている、災害に遭遇した時に「想定外」や「知らなかった」は避けたい～

地震は、地盤が壊れる断層運動により発生させ、生活環境へ様々な被害をもたらします。記憶の新しいところでは 2016 年熊本地震や 2024 年能登半島地震などの活断層地震での大きな被害や原発再稼働の判断に活断層に関わることが大きく報道されました。その活断層とはいかなるものなのか気になりますが、「活」断層とは何者なのでしょう。一番気になっていることは、活断層地震は予測できるのかどうかにあります。活断層による地震は内陸地震ともいわれていて、足元で起きることから局地的とはいえユレの大きさに加えてズレによる建物やインフラ(生産や生活のための施設など)の損壊が大きいという特徴があります。この日本列島には陸上だけでなく周辺の海域にも多数の活断層があり、ひずみの開放や大きな地震動による影響など大きな刺激があると活動するという状況にあります。つまり、私たちの足元に不発弾が埋もれているようなもので、2024.1.1 の能登半島地震はその爆弾が破裂しました。東北地方にも、多くの活断層があつて、それぞれの爆弾の大きさは異なっていますが、注意しておかなければなりません。もちろん、それがいつ破裂するのかはわかりませんが、発生確率が 0 でないことはこれまでの調査の結果から発生確率として公表されています。でも、それがすべてではないということも気になることです。都市部における活断層は、ほとんどがその周辺で住民が暮らす地域になっているために、発生すれば大きなユレと地盤のズレによる被災は避けられません。もちろん、地震の発生は回避できませんが、先ずは関心を持ちながら、可能な範囲での備えをするあるいは避けて暮らす必要があります。まずは、活断層について様々な視点から知識を理解しつつ相手のクセをつかんでおくことが基本であると思います。知ったからどうなると思われる方がいるかもしれませんが、自然災害による被害を最小にするための基本は、相手を正しく知ることから始まり、これまでの経験や科学的知見を最大に活用して関心をもち続けることだと思います。

出来るだけわかりやすく、7 項目で活断層とのかかわりについて簡単に説明いたしておきますので、全体をひととおりの目を通していただくと良いと思います。章の構成は以下のようになっています。

1. 活断層とはなにか？
2. 断層はどうやってできるのか？
3. 地震と断層の関係
4. 近くにある活断層とその性格
5. 活断層を調べる
6. 将来の危険度を予測する
7. どう付き合っていくのか

なお、より詳しく知りたい方は参考図書や情報ツールを紹介しましたので、この機会にぜひ活用してみてください。